

研修・書籍・資格と各タスク・スキルとの関係情報

タスクと研修（「資格・認定対策研修」を除く）・資格の関係情報

研修（「資格・認定対策研修」を除く）を通じて習得するタスク遂行レベル（到達目標）を「タスク評価の診断基準例」（下記）に照らし合わせて設定したもの、資格の合格基準を「タスク評価の診断基準例」（下記）に照らし合わせて設定したものが各タスクのレベルとなります。

スキルと研修（「資格・認定対策研修」を除く）・資格の関係情報

同様に、「資格・認定対策研修」を除く研修を通じて習得するスキルレベル（到達目標）、資格の合格基準となるスキルレベルを「スキル熟達度判定基準」（下記）のレベル1～4に照らし合わせて各スキルレベルを設定しています。

タスクおよびスキルと、研修（「資格・認定対策研修」）・書籍の関係情報

研修（「資格・認定対策研修」）と書籍のレベル設定はありません。検索時には「設定なし」を指定してください。

タスク評価の診断基準例

診断レベル	診断基準
レベル4	他者を指導できる、またはその経験あり
レベル3	独力で実施できる、またはその経験あり
レベル2	サポートがあれば実施できる、またはその経験あり
レベル1	トレーニングを受けた程度の知識あり
レベル0	知識、経験なし

スキル熟達度判定基準

スキルカテゴリ	テクノロジー	メソッド	関連知識
レベル7	業界をリードし市場への影響力があるレベルにある		
レベル6	業界に貢献し認知されるレベルにある		
レベル5	所属団体・組織内で貢献し認知されるレベルにある		
レベル4	非機能要件を考慮して最適化できる、最適解が出せる／定石外しができる／高度情報処理試験に合格するレベル	最適な手法を使いこなす／最適な手法を選択できる／手法を状況に応じて自在に駆使できる	関与する業種・業務の上級管理者に対しあるべき姿について議論できる
レベル3	機能要件が作成できる／自立してある限定条件で仕事ができる	課題に応じて手法の使い分けができる／現場にて手法を活用し結論を導いた事がある	関与する業種・業務のIT領域の課題点に対し解決策を提案した事がある
レベル2	指示があると使える、活用できる／実装経験がある	当該手法で分析できる／メソッドを指導下で使える	関与する業種・業務のIT領域の課題点を知っている
レベル1	技術内容について講義などを受講し知っている／知識がある	手法内容について講義などを受講し知っている／どんなものか知っている、言える／テキストで知っている	関与する業種・業務がどんなものか知っている、言える／有報などの公開情報で知っている